

520.39578x00



IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant(s): OKAYASU, ET AL.  
Serial No.:  
Filed: February 9, 2001  
Title: METHOD OF REFERRING TO DIGITAL WATERMARK  
INFORMATION EMBEDDED IN A MARK IMAGE  
Group:

LETTER CLAIMING RIGHT OF PRIORITY

Honorable Commissioner of  
Patents and Trademarks  
Washington, D.C. 20231

February 9, 2001


Sir:

Under the provisions of 35 USC 119 and 37 CFR 1.55, the applicant(s) hereby claim(s) the right of priority based on Japanese Patent Application No.(s) 2000-072455 filed March 10 2000.

A certified copy of said Japanese Application is attached.

Respectfully submitted,

ANTONELLI, TERRY, STOUT & KRAUS, LLP

  
\_\_\_\_\_  
Carl I. Brundidge  
Registration No. 29,621

CIB/mdt  
Attachment  
(703) 312-6600

日 本 国 特 許 庁  
PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT

JCS61 U.S. PRO  
09/779855  
02/09/01

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて  
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed  
with this Office.

出 願 年 月 日  
Date of Application:

2000年 3月10日

出 願 番 号  
Application Number:

特願2000-072455

出 願 人  
Applicant(s):

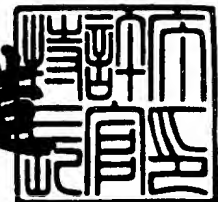
株式会社日立製作所

CERTIFIED COPY OF  
PRIORITY DOCUMENT

2001年 1月19日

特許庁長官  
Commissioner,  
Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2000-3113008

【書類名】 特許願

【整理番号】 NT00P0118

【提出日】 平成12年 3月10日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 H04L 9/00

【発明者】

【住所又は居所】 東京都江東区新砂一丁目6番27号 株式会社日立製作所 公共情報事業部内

【氏名】 岡安 里恵

【発明者】

【住所又は居所】 東京都江東区新砂一丁目6番27号 株式会社日立製作所 公共情報事業部内

【氏名】 篠田 隆志

【発明者】

【住所又は居所】 東京都江東区新砂一丁目6番27号 株式会社日立製作所 公共情報事業部内

【氏名】 浅海 博

【特許出願人】

【識別番号】 000005108

【氏名又は名称】 株式会社日立製作所

【代理人】

【識別番号】 100068504

【弁理士】

【氏名又は名称】 小川 勝男

【電話番号】 03-3661-0071

【選任した代理人】

【識別番号】 100086656

【弁理士】

【氏名又は名称】 田中 恭助

【電話番号】 03-3661-0071

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 081423

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 マーク画像中の電子透かし情報及び同情報の参照方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

マーク画像に電子透かし情報が埋め込まれており、前記電子透かし情報を参照しながら処理を進める電子透かし情報参照方法において、前記電子透かし情報は、参照されるデータと、アクション種別をもち参照する前記データのインデックスをパラメータとしてもつアクション定義とを有し、前記アクション定義を参照し、前記アクション定義に含まれる前記インデックスを介して前記データを参照して前記アクション種別によって定義される処理を行うことを特徴とするマーク画像中の電子透かし情報の参照方法。

【請求項 2】

前記アクション定義はメニュー項目が指示されたときのアクションを定義するものであり、さらにメニュー項目の名称をラベルとして含むことを特徴とする請求項 1 記載のマーク画像中の電子透かし情報の参照方法。

【請求項 3】

前記アクション定義はテキスト表示するアクションを定義するものであり、前記インデックスを介して参照されるデータは表示対象のテキストであることを特徴とする請求項 1 記載のマーク画像中の電子透かし情報の参照方法。

【請求項 4】

前記テキストは同一マークについて共通な固定情報と該同一マークを貼付するマーク貼付者ごとに可変な情報とから成ることを特徴とする請求項 3 記載のマーク画像中の電子透かし情報の参照方法。

【請求項 5】

前記アクション定義は当該マーク画像が貼付されている Web ページとは別の他の Web ページを取得して表示するアクションを定義するものであり、前記インデックスを介して参照されるデータは前記他の Web ページの所在を示す URL であることを特徴とする請求項 1 記載のマーク画像中の電子透かし情報の参照方法。

## 【請求項 6】

前記アクション定義によって定義されるアクションは、前記電子透かし情報中のマーク貼付者を示す URL と当該マーク画像が貼付されている Web ページの URL とを比較照合するオフライン認証であることを特徴とする請求項 1 記載のマーク画像中の電子透かし情報の参照方法。

## 【請求項 7】

前記アクション定義によって定義されるアクションは、前記オフライン認証の結果として両 URL の不一致を認証サーバに通報するものであることを特徴とする請求項 6 記載のマーク画像中の電子透かし情報の参照方法。

## 【請求項 8】

前記アクション定義によって定義されるアクションは、前記電子透かし情報中のマーク貼付者を示す URL が適正なマーク貼付者であるか否かを認証サーバに問い合わせるオンライン認証であることを特徴とする請求項 1 記載のマーク画像中の電子透かし情報の参照方法。

## 【請求項 9】

マーク画像と該マーク画像に埋め込まれる電子透かし情報とがネットワークを介して伝送される伝送媒体であって、前記電子透かし情報が下記データ構造を有することを特徴とする伝送媒体：参照されるデータを格納するエンティティ項目と、アクション種別と参照する前記データのインデックスをパラメータとしてもつアクション定義のエンティティ項目とを有するデータ構造。

## 【請求項 10】

ネットワークを介して伝送される伝送媒体であり、前記伝送媒体は、Web ページの閲覧をするとともに、マーク画像に埋め込まれた電子透かし情報を参照しながら下記のような処理機能を有するブラウザを含むことを特徴とする伝送媒体：前記電子透かし情報は、参照されるデータと、アクション種別をもち参照する前記データのインデックスをパラメータとしてもつアクション定義とを有し、前記アクション定義を参照し、前記アクション定義に含まれる前記インデックスを介して前記データを参照して前記アクション種別によって定義される処理を行う機能。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、インターネット等のネットワークを介して利用者クライアントへ伝送される閲覧ページに係わり、特にその閲覧ページ上に貼付されるマーク画像、そのマーク画像に埋め込まれる電子透かし情報及びその電子透かし情報を参照しながら処理を進めるプログラムに関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

インターネットの普及に伴い、インターネットを介して伝送されるホームページの著作権を主張し、その真正性を示すためにホームページ上にインターネット・マークを貼付することが行われている。しかし単にホームページ上にインターネット・マークを貼付するだけではコピー可能であり、そのホームページが不正に利用される恐れがあるため、電子透かしの技術を利用してマーク画像にマーク発行者、マーク主催者、マーク貼付者、マーク貼付者のサイトのURL、マークの有効期限などの情報を埋め込み、ホームページのURLと埋め込まれたマーク貼付者のURLを比較照合したり、マークの有効期限をチェックするようにホームページの真正性を認証する技術が提案されている。

【 0 0 0 3 】

【発明が解決しようとする課題】

上記従来技術によれば、マーク画像に埋め込まれる電子透かし情報は上記のような情報に限られているため、種類の異なるマークについてもURLのチェック、有効期限のチェックのように決まりきった処理手順で決まりきった認証処理をするしかなかった。このためマークの種類ごとに処理手順を変えたり、表示するテキスト情報を変えたりすることが困難であった。例えば処理手順の例として自動的にマーク認証した後にマークを表示するのか、最初にマーク表示をした後で利用者の指示があったときにマーク認証するかという選択肢がある。またマークが指示されたとき選択可能ないくつかのアクションをメニューとして表示する場合に、メニュー項目の数、その名称、選択されるアクションをマーク種類ごとに

自由に設計したいという要望がある。また同一種類のマークであっても表示するテキスト情報の一部をマーク貼付者ごとに可変にしたいという要望がある。さらにマークの種類ごとに処理手順や処理内容を変更するとき、マークを参照するプログラム又はこれを含むブラウザを変更しないようにすることが望ましい。

#### 【 0 0 0 4 】

本発明の目的は、マーク画像に埋め込まれる電子透かし情報のデータ形式を改良して上記課題を解決できるようなデータ形式にすること、およびこのようなデータ形式をもった電子透かし情報を参照して処理を行う方法を提供することにある。

#### 【 0 0 0 5 】

##### 【課題を解決するための手段】

本発明は、マーク画像に電子透かし情報が埋め込まれており、この電子透かし情報を参照しながら処理を進める電子透かし情報参照方法において、この電子透かし情報は、参照されるデータと、アクション種別をもち参照するデータのインデックスをパラメータとしてもつアクション定義とを有し、このアクション定義を参照し、このアクション定義に含まれるインデックスを介してデータを参照してアクション種別によって定義される処理を行うマーク画像中の電子透かし情報及び同情報の参照方法を特徴とする。またこのようなデータ構造をもったネットワークを介して伝送される伝送媒体としての電子透かし情報を特徴とする。さらにこの方法に従って処理を行うネットワークを介して伝送される伝送媒体としてのブラウザプログラムを特徴とする。

#### 【 0 0 0 6 】

##### 【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施形態について図面を用いて説明する。

#### 【 0 0 0 7 】

図 1 は、本実施形態のシステム構成を示す図である。マーク発行者サーバ 1 は、認証マークの使用を許可する事業者に対してそのマークの貼付者に共通の情報とその事業者特有の情報を埋め込んだマークを発行し、マークの払い出しをするサーバ計算機である。なお一般にマーク発行者のほかにマーク主催者が存在し、



マーク主催者のサーバが設置される。マーク主催者とマーク発行者が同一の組織体であってもよい。マーク貼付者サーバ2は、マーク発行者サーバ1からマークの払い出しを受け、このマークを自身のWebページに貼付する。マーク貼付者サーバ2は、マーク主催者からみてマークの払い出しを受けた事業者に関するサーバ計算機である。マーク利用者クライアント3は、マーク貼付者サーバ2にアクセスし、マーク画像の貼付されたWebページ11を閲覧するクライアント計算機である。マーク利用者クライアント3は、キーボード、マウス等の入力装置と表示装置を備える。マーク認証サーバ4は、マーク利用者クライアント3からの要求を受けてオンラインでマーク認証を行うサーバ計算機である。ネットワーク9は、マーク発行者サーバ1、マーク貼付者サーバ2、マーク利用者クライアント3及びマーク認証サーバ4の間に介在するインターネット等のネットワークである。

## 【0008】

マーク利用者クライアント3は、そのメモリにブラウザ21及びマーク参照プログラム22を搭載し、マーク利用者クライアント3の処理装置によって実行する。ブラウザ21は、マーク貼付者サーバ2のサイトのURLを指定しネットワーク9を介してそのWebページ11を要求すると、マーク貼付者サーバ2のWWW (World Wide Web) サーバ12は、記憶装置上のWebページを検索し、指定されたWebページ11をマーク利用者クライアント3へ送信する。ブラウザ21は受信したWebページ11を解釈して表示装置上に表示する。ブラウザ21がマークの拡張子を検出すると、マーク参照プログラム22に制御を渡す。マーク参照プログラム22は、マークに埋め込まれた電子透かし情報を抽出し、マークのオフライン認証をして、Webページ11に正しいマークが貼付されていれば、正規のマーク画像を表示する。また利用者によってマウスを介してマークが指示されると、マーク認証に関する各種情報を取得するアクションを選択可能なメニューを表示する。さらにマークのオンライン認証が指示されたとき、マーク参照プログラム22は、ブラウザ21及びネットワーク9を介してマーク認証サーバ4にアクセスし、当該Webページに貼付されたマークの適・不適についての情報を取得する。マーク参照プログラム22をブラウザ21の一部として組

み込んでもよい。

【0009】

Web ページ 11 に貼付されるマーク画像及びそのマーク画像に埋め込まれる電子透かし情報は、ネットワーク 9 を介してマーク発行者サーバ 1 とマーク貼付者サーバ 2 の間並びにマーク貼付者サーバ 2 と利用者クライアント 3 の間を伝送されるのであるから、伝送媒体として取り扱うことができる。

【0010】

マーク参照プログラム 22 又はマーク参照プログラム 22 を含むブラウザ 21 のプログラムを伝送媒体としてネットワーク 9 を介して配布先のサーバから利用者クライアント 3 へ配布することが可能である。またマーク参照プログラム 22 又はマーク参照プログラム 22 を含むブラウザ 21 のプログラムを CD-ROM などの記憶媒体に格納し、配布することが可能である。

【0011】

図 2 は、マーク貼付者サーバ 2 から送られ、利用者クライアント 3 のブラウザ 21 によって表示装置上に表示された Web ページ 31 を示す図である。Web ページ 31 上にはマーク参照プログラム 22 によってマーク 41 が表示されている。図 3 は、同じ Web ページ 31 上のマーク 41 がマウスによって指示され、メニュー 42 が表示された情報を示す図である。メニュー 42 は、マークに関する情報を利用者に提供するためにいくつかのメニュー項目を表示する。いずれかのメニュー項目を選択することによって、マーク参照プログラム 22 及びブラウザ 21 は指定された情報を表示装置上に表示する。

【0012】

図 4 は、「マーク貼付者の情報」のメニュー項目が指示されたときにダイアログウィンドウ 44 中に表示されるテキスト情報の例を示す図である。テキスト情報は、マーク主催者が当該 Web ページを発行したマーク貼付者に認証マークの使用を許可した旨と、マーク貼付者についての情報を記載している。「認証サーバ問合せ」ボタン 45 は、マーク認証サーバ 4 を呼び出してこの「マーク貼付者の情報」を確認するためのオンライン認証を指示するボタンである。オンライン認証によって利用者は、Web ページ 31 に正規のマークが貼付されているにも

かわらず、有効期限の途中でマーク使用を停止または取消されたマーク貼付者を検知することができる。「主催者情報」ボタン46は、マーク主催者についての情報を得るために、マーク主催者の発行するWebページにアクセスするためのボタンである。「OK」ボタンは制御をブラウザ21に戻すためのボタンである。

#### 【0013】

図5は、「認証サーバ問合せ」ボタン45が押下されたときにブラウザ21を介してマーク認証サーバ4から取得したWebページ61の例を示す図である。Webページ61は、当該マーク貼付者が当該マークを使用することを認証する旨と、当該マーク貼付者についての情報を記載している。

#### 【0014】

図6は、「マーク制度の説明」のメニュー項目が指示されたときにダイアログウィンドウ47中に表示されるテキスト情報の例を示す図である。本例ではオンラインマーク制度の由来と、マークの中には何が埋め込まれていて、どのような認証チェックが行われるのかについて説明している。

#### 【0015】

図7は、「マーク貼付者の一覧」のメニュー項目が指示されたときにブラウザ21を介して取得したホームページ62の例を示す図である。ホームページ62は、マーク発行者サーバ1から同一マークの払い出しを受けたサイトの一覧表を掲載する。各サイトにはそのホームページのURLが添付されているので、いずれかのURLを指示することによって利用者はそのサイトのホームページを閲覧することができる。

#### 【0016】

図8は、マークのオフライン認証の結果、マークに埋め込まれたマーク貼付者サーバ2のURLと当該WebページのURLについて不一致が検出されたときに表示されるマーク48と、その結果生成されるダイアログウィンドウ49中に表示されるテキスト情報の例を示す図である。「認証サーバへ通報」ボタン50は、マーク認証サーバ4を呼び出してURL不一致を通報するよう指示するボタンである。図9は、Webページ63中に表示されるマーク認証サーバ4からの

応答文を示す図である。

【 0 0 1 7 】

図 1 0 A 及び図 1 0 B は、電子透かし情報としてマークに埋め込まれているデータの種別とその内容を定義する図である。データ定義は、データの種別を示すコードとデータとから成る。データには直接参照されるデータと、参照するエンティティ項目データの番号をインデックスとして含むデータとがある。後者のデータは設定されるエンティティ項目番号を介して間接的に参照されるデータである。

【 0 0 1 8 】

D 1 の文字コードは、J I S、A S C I I などデータを表現する文字コードを示す。D 2 の対象国コードは、I S O 3 1 6 6 で規定されている対象国を示す 2 文字であり、日本であれば J P である。D 3 はマーク発行者の名称、D 4 はマーク発行者に係わるサーバの U R L、D 5 はマーク主催者の名称、D 6 はマーク主催者に係るサーバの U R L、D 7 は払い出された当該マークに付与された識別子 ( I D ) である。

【 0 0 1 9 】

D 8 は初期動作を定義する。マーク表示アクション定義項目は、最初に表示するマークについてのアクションを設定するエンティティ項目の番号を示す。0 ならば何も表示しない。初期アクション定義項目は、続いて実行するアクションを設定するエンティティ項目の番号を示す。D 9 はマークがクリックされたとき表示するメニュー構成を定義する。メニュー項目数は、表示するメニュー項目の数を定義する。アクション定義項目リストは、各メニュー項目が選択されたとき実行されるアクションを定義するエンティティ項目の番号を示す。各アクションの名称はメニュー項目名として表示される。

【 0 0 2 0 】

D 1 0 は当該マークが貼付されている W e b ページのオフライン認証後にマークを表示する場合に実行するアクションを定義する。アクション数は実行し得るアクションの数であり、マーク表示アクション定義項目リストは、各アクションを定義するエンティティ項目番号のリストを示す。D 1 1 はオフライン認証後に

テキストを表示する場合に実行するアクションを定義する。アクション数は実行し得るアクションの数であり、テキスト表示アクション定義項目リストは、各アクションを定義するエンティティ項目番号のリストを示す。D12は当該マークが貼付されている少なくとも1つのWebページのURLを定義する。貼付URL数は、当該マークが貼付されているWebページのURLの数であり、貼付ページURLは、省略不可部と省略可能部を1セットとし、少なくとも1つのセットを定義する。

#### 【0021】

図10Bに移り、D13は各貼付ページが所在するサーバのIPアドレスについての情報として、貼付IPアドレス数、貼付ページのサーバのIPアドレスのIPバージョンコード及びそのIPアドレスデータを定義する。D14はマーク有効期限の開始時を開始年月日時分によって定義する。D15はマーク有効期限の終了時を終了年月日時分によって定義する。D16はコンテンツ特徴値としてWebページのコンテンツから取得されたハッシュ値を定義する。D17は当該マークが貼付されたWebページの真正性をオンライン認証する認証サーバのURLを定義する。

#### 【0022】

D18はマウスHOVER対応アクションであり、マークにマウスカーソルが重なったときのアクションを定義するエンティティ項目の番号を定義する。D19はマウスLEAVE対応アクションであり、マーク上のマウスカーソルがマークから離れたときのアクションを定義するエンティティ項目の番号を定義する。D20はマウス左ボタン押下アクションであり、マーク上でマウスの左ボタンを押下したときのアクションを定義するエンティティ項目の番号を定義する。D21はマウス右ボタン押下アクションであり、マーク上でマウスの右ボタンを押下したときのアクションを定義するエンティティ項目の番号を定義する。

#### 【0023】

D22はアクションを定義するための特殊なデータである。アクション名はそのアクションを表す名称であり、アクション名が表示対象となる場合に定義される。アクション種別コードは、アクションの種別を示すコードであり、詳細は図

1 1 A および図 1 1 B に示すアクション種別コード定義によって定義される。アクション種別固有データは、そのアクションを実行するときに必要となるデータを定義する。D 2 3 は汎用 I P アドレスであり、I P バージョンコードを設定する。D 2 4 は汎用 U R L であり、認証サーバの認証ページ以外の関連する W e b ページの U R L を定義する。D 2 5 はテキストであり、当該マークが貼付される W e b ページに関して生成されるダイアログウィンドウ内に表示する情報を定義する。

#### 【 0 0 2 4 】

図 1 1 A および図 1 1 B は、アクション種別コードとその固有データについての定義を示す図である。アクション定義は、アクションの種別を示すアクションコードと、そのアクションに必要なデータであるパラメータ部を含むデータ構造をもつ。ただしメニュー表示 (A 1) のアクション定義は、暗示的にメニュー構成定義 (D 9) をデータとして参照するためにアクション定義中にパラメータ部を含まない。マーク表示 (A 7) 及び追加プログラム実行 (A 8) のパラメータ部は、直接参照されるデータである。それ以外のアクション定義のパラメータ部は、参照するエンティティ項目の番号をインデックスとして含んでいる。すなわち設定されるエンティティ項目の番号を介してデータを参照する間接アドレス方式となっている。

#### 【 0 0 2 5 】

A 1 のメニュー表示アクションは、D 9 に定義されるメニュー構成定義項目で設定されたポップアップメニューを表示する。アクション用データはメニュー構成定義を介してアクセスされるアクション定義項目で設定される。アクション用データとしてメニュー構成定義のエンティティ項目番号を設定してもよい。A 2 のオフライン認証は、参照環境から取得した情報とエンティティ内の認証情報とを比較する認証を行い、認証結果コードを生成する。この認証結果に基づき、認証後マーク表示定義項目に従ってマーク表示を行う。さらに認証後テキスト表示定義項目が 0 でなければ、これに従ったテキスト表示を行う。A 3 の吹き出し表示は、枠線だけのウィンドウを生成し、表示用テキスト項目番号で指定された項目のテキスト情報をこのウィンドウに表示する。

## 【 0 0 2 6 】

A 4 のテキスト表示は、D 2 2 で定義されるアクション名をタイトルとするダイアログウィンドウを生成し、表示用テキスト項目番号で指定される固定テキストの情報をこのウィンドウに表示する。さらにテキスト内に可変情報を挿入する場合には、テキスト内挿入情報数とテキスト内挿入情報で定義されるテキストを挿入して表示する。テキスト内挿入情報は挿入テキストを設定するエンティティ項目の番号又はシステム情報コードである。またテキストを表示するとともにボタンを追加表示する場合には、追加ボタン数と追加ボタン用アクション定義項目番号リストを設定する。追加ボタン用アクション定義項目は、ボタンが押下された時に実行するアクションを設定する。

## 【 0 0 2 7 】

A 5 の W e b ページ表示は、U R L 項目に指定された W e b ページを取得し、新規のブラウザウィンドウに表示させる。U R L 項目は、その W e b ページの所在を示す U R L である。リンク先消滅時アクション番号は、初期動作時にチェックした結果を示すリンク先存在フラグを参照し、リンク先が消滅しているとき実行するアクションを設定するエンティティ項目番号を定義する。初期動作時にリンクチェックをしていなければ無効である。またリンク先消滅時アクション項目番号が 0 ならリンク先消滅時のアクションを行わない。

## 【 0 0 2 8 】

A 6 のサーバ通信は、サーバ U R L 項目番号で指定されるサーバにリクエスト種別コードで指定されるリクエストを発行し、サーバから受け取ったレスポンスデータをレスポンス処理方式コードに従って処理する。A 7 のマーク表示は、マーク画像に対し、画像効果コードで指定された効果を施し、合成テキストで指定されたテキストを重ねて表示する。テキストはテキストボディ色コードとテキスト枠線色コード及びフォントコードに従って表示する。合成テキストの指定がなければテキストの合成を行わない。

## 【 0 0 2 9 】

図 1 1 B に移り、A 8 の追加プログラム実行は、アクション用データとしてスクリプト言語で記述されたプログラムを解釈して実行する。スクリプト言語によ

るプログラム記述をD25のテキストとして設定し、アクション定義のアクション用データではこのテキストのエンティティ項目番号を設定してもよい。

#### 【0030】

A9のリンクチェックは、初期動作時にマーク認証に関するWebページが消滅しているなどの事情によってアクセス不可能となっているか否かチェックし、その結果をリンク先存在フラグとしてメモリに保存する。汎用URL項目番号は対象とするURLを格納するエンティティ項目の番号、OK時アクション項目番号はコンテンツにアクセスできた場合に実行するアクションを定義するエンティティ項目の番号、NG時アクション項目番号はコンテンツにアクセス不可能の場合に実行するアクションを定義するエンティティ項目の番号である。Webページにアクセスできた場合にはWebページの表示を行わない。アクション項目番号が0ならそのアクションを行わない。

#### 【0031】

図12A～図12Fは、電子透かし情報としてマークに埋め込まれているデータエンティティの例を示す図である。各行の先頭の項番は他のエンティティ項目データからパラメータとして参照可能なインデックスとなる。Dコードはデータ種別を示すコードである。アクション定義を設定するエンティティ項目の先頭はアクション名であるが、メニュー項目が指定されたときのアクションを定義するアクション定義、ボタンが押下されたときのアクションを定義するアクション定義及びダイアログウィンドウを開いてテキスト表示するアクションを定義するアクション定義については、ラベル又はタイトルとしても利用される。ラベル又はタイトルの利用がないアクション定義のアクション名は” ”が設定される。

#### 【0032】

項番1～項番7は、文字コード、対象国コード、マーク発行者名称、マーク発行者URL、マーク主催者名称、マーク主催者URL及びマーク個別IDを設定する。項番8は、初期動作を示し、項番17でマーク表示アクションを定義し、項番15でマーク表示後の初期アクションを定義することを示す。項番17ではA7のアクション（マーク表示）を行い、マークの上に” 認証中 ”のテキストを重ねて表示することを示す。項番15ではA2のアクション（オフライン認証）



を行い、オフライン認証後に項番10に従ってマーク表示するよう設定する。項番10ではオフライン認証後にマーク表示するよう設定し、認証結果が正しければ項番21に従ってマーク表示し、URLが不正であれば項番22に従ってマーク表示し、マークの有効期限切れであれば項番24に従ってマーク表示するよう設定する。項番21では画像効果なし、合成テキストなしで正規のマークを表示するよう設定する。

#### 【0033】

項番12はマークにマウスカーソルが重なったことを検出したとき、項番14に従って吹き出しを表示するよう設定する。項番14ではA3のアクション（吹き出し表示）をし、その吹き出し中に項番32に設定するテキストを表示する旨設定する。

#### 【0034】

項番13はマーク上でマウスの左ボタンが押下されたとき、項番16に従ってメニュー表示するよう設定する。項番16ではA1のアクション（メニュー表示）をするよう設定する。項番9はメニュー構成を設定する。それによれば、メニューは3項目から成り、項目名称は項番18, 19及び20に設定されることを示す。

#### 【0035】

項番18では「マーク貼付者の情報」項目が指示されたとき、オフライン認証を行った後に項番10に従ってマーク表示し、その後項番11に従ってテキスト表示するよう設定する。項番11では認証結果が正しければ項番26に従ってテキスト表示し、URLが不正であれば項番23に従ってテキスト表示し、有効期限切れであれば項番25に従ってテキスト表示するよう設定する。項番26ではA4のアクション（テキスト表示）をするよう設定する。テキストの固定情報は項番38に設定され、テキストに挿入される可変情報は項番39, 40, 41, 42及び35に設定される。また2個の追加ボタンを設け、それらボタンの名称は項番27及び項番28に設定されている。項番27では「認証サーバ問合せ」ボタンが押下されたとき、A6のアクション（サーバ通信）を行うことを示し、サーバURLは項番31に設定されている。サーバへのリクエストコードは1で

あり、レスポンスの処理方式コードは3である。項番28では「主催者情報」ボタンが押下されたとき、A5のアクション（Webページ表示）を行うことを示し、そのURLは項番6に設定されている。

【0036】

項番19では「マーク制度の説明」項目が選択されたとき、項番33に従ってテキスト表示するよう指示する。テキストに挿入される可変情報はなく、追加ボタンもない。

【0037】

項番20では「マーク貼付者の一覧」項目が選択されたとき、Webページ表示を行うよう設定する。そのWebページのURLは項番30に設定されている。

【0038】

項番22ではオフライン認証でURL不正の場合にマーク表示を行い、マークの上に”不正使用マーク”のテキストを重ねて表示することを示す。その後項番23に従ってテキストを表示するよう設定する。項番23では”不正使用マーク”のタイトルをもつダイアログウィンドウを生成し、テキスト表示をするよう設定する。テキストの固定情報は項番34に設定され、テキストに挿入される可変情報は項番35及び項番1に設定される。項番1のエンティティ上には当該WebページのURLがオーバーレイされる。また1個の追加ボタンを設け、ボタンの名称は項番29に設定されている。

【0039】

項番24ではオフライン認証で有効期限切れの場合にマーク表示を行い、マークの上に”有効期限切れ”のテキストを重ねて表示することを示す。その後項番25に従ってテキストを表示するよう設定する。項番25では”有効期限切れ”のタイトルをもつダイアログウィンドウを生成し、テキスト表示するよう設定する。テキストの固定情報は項番36に設定され、テキストに挿入される可変情報は項番37及びシステム情報コードS1で指定される現在時刻である。また1個の追加ボタンを設け、ボタンの名称は項番29に設定されている。

## 【 0 0 4 0 】

図 1 2 E は、リンクチェックに関するエンティティの例を示す図である。項番 3 では初期動作時に項番 4 に示される初期アクションを実行するよう設定する。項番 4 では A 9 のアクション（リンクチェック）を行うことを示し、項番 2 にその URL が示される Web ページにアクセスし、コンテンツにアクセスできた場合にはメモリ上のリンク先存在フラグを OK として、項番 5 のマーク表示アクションを行う。項番 5 ではマーク画像の上に OK の文字を重ねて表示する。コンテンツにアクセスできない場合にはメモリ上のフラグを NG として、項番 6 のマーク表示アクションを行う。項番 6 ではマーク画像の上に NG の文字を重ねて表示する。「マーク貼付者の一覧」のメニュー項目又はボタンが押下されたとき、項番 1 に設定されるアクション定義を実行する。すなわち項番 2 に示される汎用 URL にアクセス可能か否か、リンク先存在フラグを参照する。このフラグが NG であれば、項番 2 に示されるリンク先の Web ページにアクセスせず、従って表示中の Web ページは変更されない。このフラグが OK であれば、ブラウザ 2 1 を介してリンク先の Web ページにアクセスしてその Web ページを表示する。項番 1 でリンク先消滅時アクション項目番号の指定があれば、テキスト表示など指定されたエンティティ項目のアクションを実行する。

## 【 0 0 4 1 】

図 1 2 F は、マーク画像に埋め込まれた追加プログラムの実行に関するエンティティの例を示す図である。項番 1 ではマークにマウスカーソルが重なったことを検出したとき、項番 2 の追加プログラムを実行するよう設定する。項番 2 ではデータ部に記述された処理プログラムを実行する。追加プログラムの処理の一例として、マーク画像にマウスカーソルが重なっている状態であれば、吹き出しを表示し、吹き出し内にテキストを表示し、このテキスト文字をスクロールする。このような追加プログラムによって上記のエンティティ項目では記述できないような機能を追加することができる。

## 【 0 0 4 2 】

なお電子透かし情報のエンティティの最後に電子透かし情報の全体についてデジタル署名が設定されている。

## 【 0 0 4 3 】

図 1 3 A ～ 図 1 3 D は、マーク参照プログラム 2 2 の処理の流れを示すフローチャートである。マーク参照プログラム 2 2 は、Web ページ 3 1 を表示し、マークの拡張子を検出したブラウザ 2 1 から制御を受け、マーク画像に埋め込まれた電子透かし情報を抽出する（ステップ 7 1）。次にマークに埋め込まれたデジタル署名の検証を行う（ステップ 7 2）。デジタル署名の不正を検出したとき、そこで処理を停止する。デジタル署名が正しいとき、電子透かし情報をメモリ上に展開してデータのエンティティを作成する（ステップ 7 3）。次にデータエンティティ中のデータ種別 8 のデータを参照して初期動作を行い、初期マークを表示し（ステップ 7 4）、オフライン認証を行う（ステップ 7 5）。認証結果が正しいければ（ステップ 7 6、OK）、当該 Web ページ 3 1 上にマーク 4 1 を表示する（ステップ 7 7）。マーク 4 1 がクリックされたとき、データ種別 9 のデータに従ってメニュー 4 2 を作成し、Web ページ 3 1 上に表示する（ステップ 7 8）。

## 【 0 0 4 4 】

図 1 3 B に移り、メニュー項目の「マーク制度の説明」が選択されたとき（ステップ 7 9、マーク制度の説明）、マーク参照プログラム 2 2 は、ダイアログウィンドウ 4 7 を生成し、指定されたテキスト情報をこのダイアログウィンドウ 4 7 に表示する（ステップ 8 0）。またメニュー項目の「マーク貼付者の一覧」が選択されたとき（ステップ 7 9、マーク貼付者の一覧）、ブラウザ 2 1 を介して指定された Web ページ 6 2 を取得してブラウザウィンドウに表示する（ステップ 8 2）。

## 【 0 0 4 5 】

メニュー項目の「マーク貼付者の情報」が選択されたとき（ステップ 7 9、マーク貼付者の情報）、マーク参照プログラム 2 2 は、オフライン認証を行って、認証結果が正しいければ、ダイアログウィンドウ 4 4 を生成してテキストに挿入情報を組み込んで表示する（ステップ 8 1）。このとき「認証サーバ問合せ」ボタン 4 5 と「主催者情報」ボタン 4 6 を表示する。「認証サーバ問合せ」ボタン 4 5 が押下されたとき（ステップ 8 3、認証サーバ問合せ）、マーク参照プログラ

ム 2 2 は、ブラウザ 2 1 を介してマーク認証サーバ 4 に問い合わせ、取得した Web ページ 6 1 をブラウザウィンドウに表示する（ステップ 8 4）。マーク参照プログラム 2 2 は、ブラウザ 2 1 を介してマーク認証サーバ 4 へマーク貼付者の URL、当該マーク画像が貼付されている Web ページの URL、マークの有効期限などオンライン認証に必要な情報を送信する。「主催者情報」ボタン 4 6 が押下されたとき（ステップ 8 3，主催者情報）、ブラウザ 2 1 を介してマーク主催者に係わるサーバから Web ページを取得してブラウザウィンドウに表示する（ステップ 8 5）。

#### 【 0 0 4 6 】

図 1 3 C に移り、オフライン認証の結果として、URL 不正を検出したとき（ステップ 7 4，URL 不正）、マーク参照プログラム 2 2 は、マークの上に「不正使用マーク」のテキストを重ねたマーク 4 8 を表示し（ステップ 9 1）、ダイアログウィンドウ 4 9 を生成し、テキストに正しい URL と参照中の Web ページの URL を組み込んで表示する（ステップ 9 2）。このとき「認証サーバへ通報」ボタン 5 0 を表示する。「認証サーバへ通報」ボタン 5 0 の押下を検出したとき（ステップ 9 3，認証サーバへ通報）、マーク認証サーバ 4 に通報し、取得した Web ページ 6 3 をブラウザウィンドウに表示する（ステップ 9 4）。

#### 【 0 0 4 7 】

オフライン認証の結果として、有効期限切れを検出したとき（ステップ 7 4，有効期限切れ）、図 1 3 D に移り、マーク参照プログラム 2 2 は、マークの上に「有効期限切れ」のテキストを重ねたマークを表示し（ステップ 1 0 1）、ダイアログウィンドウを生成し、テキストに有効期限と現在時刻を組み込んで表示する（ステップ 1 0 2）。このとき「認証サーバへ通報」ボタン 5 0 を表示するので、上記のステップ 9 3 及び 9 4 の処理を行うことができる。

#### 【 0 0 4 8 】

なおステップ 7 4 でデータエンティティ中のデータ種別 8 のデータを検索して初期マークを表示したが、データエンティティ中のデータ種別 8 のデータがなければ項番 2 1 の ” | A 7 | 0 | ” のデータを検索し、正規のマーク 4 1 を表示して操作待ちの状態にしてもよい。

## 【 0 0 4 9 】

またメニュー項目としてオフライン認証を指示する項目を設けてもよい。この場合には「オフライン認証」が選択されたとき A 2（オフライン認証）を行う。この方式によれば、最初に正規のマーク 4 1 を表示し、マーク 4 1 がクリックされたとき「オフライン認証」を含むメニュー 4 2 を表示し、「オフライン認証」のメニュー項目が選択されたときオフライン認証を行うことができる。またメニュー項目としてオンライン認証を指示する項目を設け、マーク 4 1 を表示後に直ちにオンライン認証を指示可能としてもよい。

## 【 0 0 5 0 】

またステップ 8 1 では「マーク貼付者の情報」のメニュー項目が選択されたときステップ 7 5 で行った同一内容のオフライン認証を重複して行っているが、オフライン認証をせずにすぐテキスト表示をしてもよい。

## 【 0 0 5 1 】

また本実施形態ではメニュー項目として設定された「マーク貼付者の一覧」やボタンとして設定された「主催者情報」ボタンが指示されたとき、指定された Web ページを取得してブラウザウィンドウに表示している。このように Web ページ取得手段によって、利用者は、マーク貼付者が宣誓した宣言文、契約文書、約款などの文書を取得することができる。これらの文書についても、同様にマークの認証を行ったり、マーク主催者等によるデジタル署名を検証することによって、利用者はこれらの文書の真正性をチェックすることができる。

## 【 0 0 5 2 】

本実施形態によれば、マークが指示されたときに表示するメニューの項目数、メニュー項目の名称とそのアクションをマークごとに設定することができる。またオフライン認証のアクションとマーク表示のアクションの順序をマークごとに設定するなど、処理の順序をマークに応じて設計することができる。またメニュー項目又はボタンが指示されたときにダイアログウィンドウに表示するテキストをマークごとに設定でき、テキストの可変部分にマーク貼付者に関する情報を挿入することによって、同一マークを貼付する貼付者固有の情報を盛り込んだテキストを生成できる。また利用者がアクセス不可能な Web ページの表示を指示す

るとき、表示画面を変更することなく利用者にリンク先が消滅していることを通知できる。さらに電子透かし情報としてマーク画像に追加プログラムのエンティティを埋め込むことができるので、上記のデータ定義及びアクション定義では記述できないようなマーク認証に関する処理を追加できる。

#### 【 0 0 5 3 】

以上のようにマークの種類ごとに電子透かし情報の設定を変更できるが、マーク参照プログラム 2 2 を変更せずにこのようにマークの認証関係情報を設定したり、機能追加することができる。

#### 【 0 0 5 4 】

##### 【発明の効果】

以上述べたように、本発明によればマーク画像に埋め込まれる電子透かし情報のデータ形式を設定し、データを設定するエンティティ項目とアクションを定義するエンティティ項目とを自由に設計可能なため、マークの種類によって処理手順を変更したり、表示するメニュー項目の数、メニュー項目の名称とそのアクションを自由に設定することができる。またこのようなデータ形式をもつ電子透かし情報を参照するプログラムによって、利用者にマーク及びそれが貼付されたホームページの真正性を確認するための各種手段、例えばオフライン認証、オンライン認証、マーク制度の趣旨の説明、マーク主催者による保証文などを提供することができる。またマーク自体又はマーク貼付の不正が検出されたとき、認証サーバに通報する手段を提供することができる。また同一マークであってもマーク貼付者によって表示するテキスト情報の内容を可変にすることができる。さらにプログラム追加機能を設けているので、設定されたデータ定義及びアクション定義では記述できないような処理を追加できる。

#### 【 0 0 5 5 】

このように電子透かし情報自体が豊富なデータ記述形式をもっていることと、追加プログラム機能とによって、マーク参照プログラム又はこれを含むブラウザを変更することなくマークの種別に応じて電子透かし技術によってマークに埋め込むエンティティデータを設計し、バラエティのあるマーク認証処理が可能である。さらに電子透かし情報中にテキスト情報を組み込み、ダイアログウィンドウ

中にこのテキスト情報を表示できるので、この機能によってインターネットを介してW e b ページを取得するための通信を回避することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

実施形態のシステム構成を示す図である。

【図 2】

マークが貼付されたW e b ページの例を示す図である。

【図 3】

マークが指示されメニューが表示された状態の例を示す図である。

【図 4】

「マーク貼付者の情報」のメニュー項目が指示されたときに表示されるテキスト情報の例を示す図である。

【図 5】

オンライン認証の結果として認証サーバから取得したW e b ページの例を示す図である。

【図 6】

「マーク制度の説明」のメニュー項目が指示されたときに表示されるテキスト情報の例を示す図である。

【図 7】

「マーク貼付者の一覧」のメニュー項目が指示されたときに表示されるホームページの例を示す図である。

【図 8】

マークのオフライン認証の結果としてURL不一致が検出されたときに表示されるマークとテキスト情報の例を示す図である。

【図 9】

W e b ページ中に表示される認証サーバからの応答文の例を示す図である。

【図 1 0 A】

埋め込まれるデータの種別とその内容を定義する図である。



【図 1 0 B】

埋め込まれるデータの種別とその内容を定義する図（続き）である。

【図 1 1 A】

アクション種別コードとその固有データについて定義する図である。

【図 1 1 B】

アクション種別コードとその固有データについて定義する図（続き）である。

【図 1 2 A】

埋め込まれるデータエンティティの例を示す図である。

【図 1 2 B】

埋め込まれるデータエンティティの例を示す図（続き）である。

【図 1 2 C】

埋め込まれるデータエンティティの例を示す図（続き）である。

【図 1 2 D】

埋め込まれるデータエンティティの例を示す図（続き）である。

【図 1 2 E】

埋め込まれるデータエンティティの例を示す図（続き）である。

【図 1 2 F】

埋め込まれるデータエンティティの例を示す図（続き）である。

【図 1 3 A】

実施形態のマーク参照プログラム 2 2 の処理の流れを示すフローチャートである。

【図 1 3 B】

実施形態のマーク参照プログラム 2 2 の処理の流れを示すフローチャート（続き）である。

【図 1 3 C】

実施形態のマーク参照プログラム 2 2 の処理の流れを示すフローチャート（続き）である。

【図 1 3 D】

実施形態のマーク参照プログラム 2 2 の処理の流れを示すフローチャート（続

き)である。

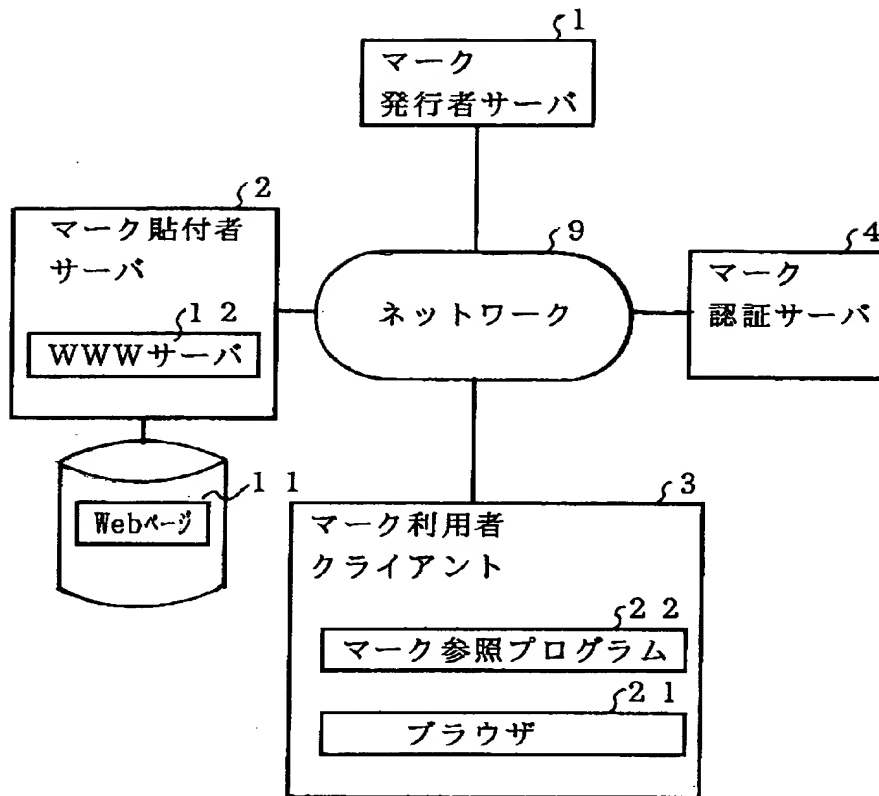
【符号の説明】

1 : マーク発行者サーバ、2 : マーク貼付者サーバ、3 : マーク利用者クライアント、4 : マーク認証サーバ、1 1 : W e b ページ、2 1 : ブラウザ、2 2 : マーク参照プログラム、3 1 : W e b ページ、4 1 : マーク、4 2 : メニュー

【書類名】 図面

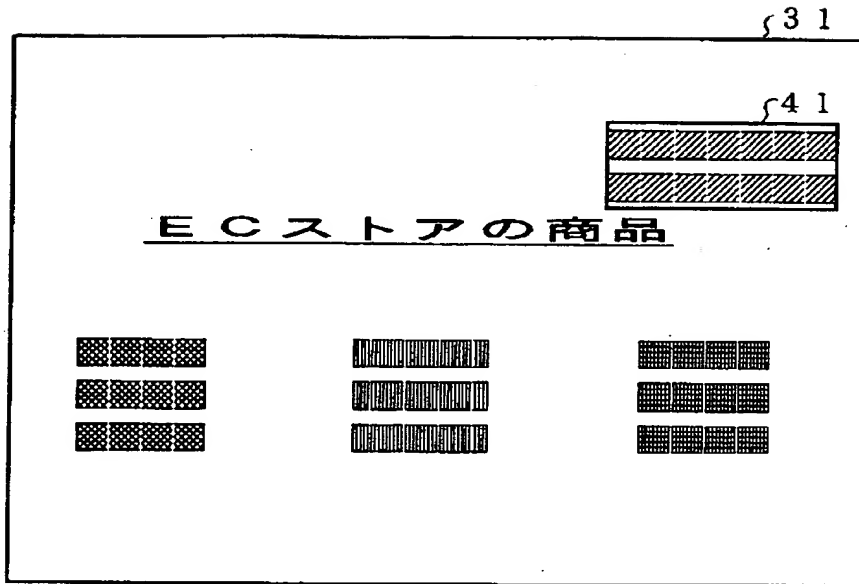
【図 1】

図 1



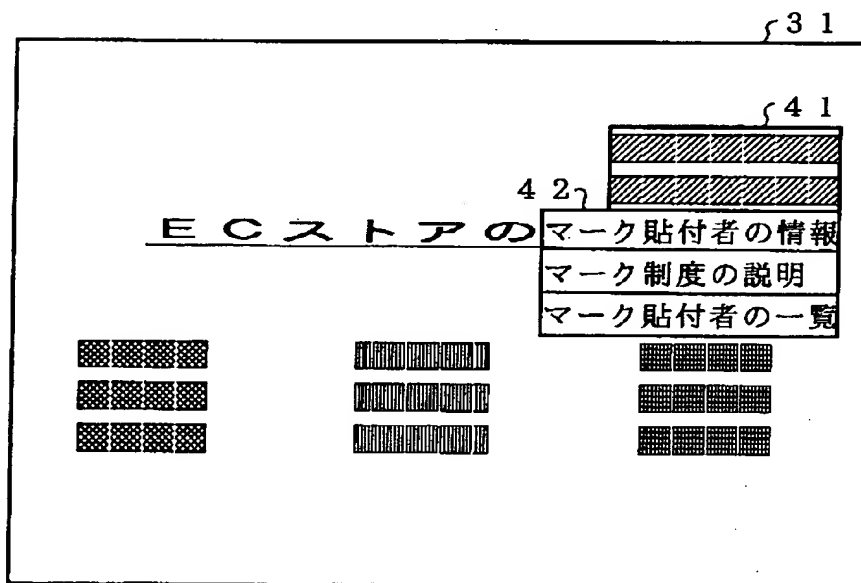
【図 2】

図 2



【図 3】

図 3



【図4】

図4


3 1

マーク貼付者の情報
4 4

このマークを使用する事業者は、YYYが定めるマーク制度の認証基準に基づいて適格であると認め、YYYの認証マークの使用を許可しております。

①マーク貼付者名：ECストア株式会社  
 ②代表者名：代表取締役社長 山田太郎  
 ③郵便番号：100-0035  
 ④住所：東京都千代田区丸の内3-2-2  
 ⑤使用許可URL：<http://www.ecstore.co.jp>

[認証サーバ問合せ] ボタンでオンライン認証ができます。



4 1

OK

認証サーバ問合せ

4 5

主催者情報

4 6

【図5】

図5

61

このマークはYYYの認証基準に適格な事業者であることを認証し発行しました。

①マーク貼付者名：ECストア株式会社  
②代表者名：代表取締役社長 山田太郎  
③郵便番号：100-0035  
④住所：東京都千代田区丸の内3-2-2  
⑤使用許可URL：<http://www.ecstore.co.jp>

【図6】

図6

31

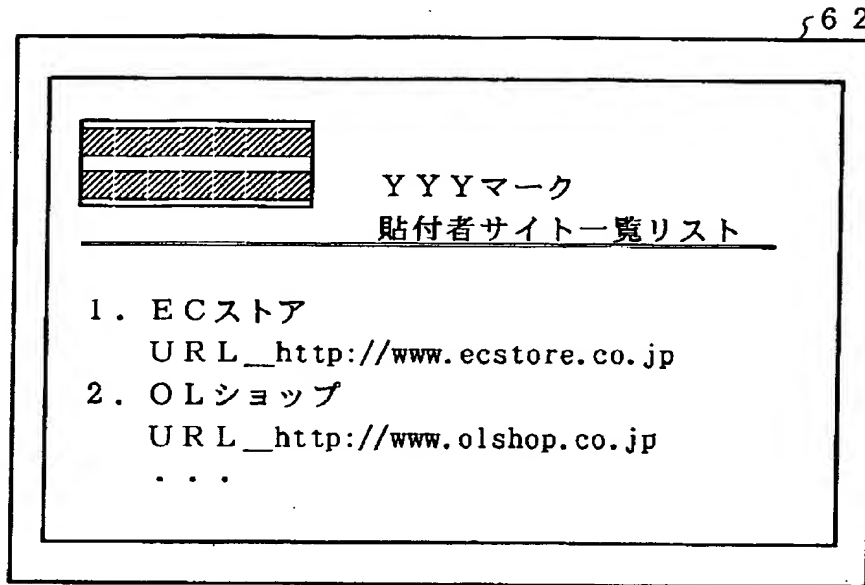
マーク制度の説明 47

YYYマーク制度とは、・・・  
このマークには、YYYが認証した事業者が運営するホームページURLとマーク使用有効期限が埋め込まれています。・・・最新情報が確認できます。

OK

【図7】

図7



【図 8】

図 8

不正使用マーク

貼付されているURLが正しくありません。  
正：http://www.ecstore.co.jp  
誤：http://www.vxstore.co.jp

〔認証サーバへ通報〕ボタンを押すと、自動的にX  
X Xマークセンターのサーバに不正使用しているURL  
情報が通報されます。ボタンを押して下さい。

OK 認証サーバへ通報

【図 9】

図 9

ご連絡ありがとうございます。

お知らせいただいた情報

- ・貼付されているURLが異なる  
正：http://www.ecstore.co.jp  
誤：http://www.vxstore.co.jp

お知らせいただいた情報を基にマークの不正使用につ  
いて調査致します。



【図 10 A】

図 10 A

コード	データ種別	データ
D 1	文字コード	文字コード
D 2	対象国コード	国コード
D 3	マーク発行者名称	マーク発行者名称
D 4	マーク発行者 URL	マーク発行者 URL
D 5	マーク主催者名称	マーク主催者名称
D 6	マーク主催者 URL	マーク主催者 URL
D 7	マーク個別 ID	マーク個別 ID
D 8	初期動作	マーク表示アクション定義項目
		初期アクション定義項目
D 9	メニュー構成定義	メニュー項目数
		アクション定義項目リスト
D 1 0	オフライン認証後マーク表示定義	アクション数
		マーク表示アクション定義項目リスト
D 1 1	オフライン認証後テキスト表示定義	アクション数
		テキスト表示アクション定義項目リスト
D 1 2	貼付 URL	貼付 URL 数
		貼付 URL 省略不可部
		同省略可能部

【図10B】

図 10 B

コード	データ種別	データ
D 1 3	貼付IPアドレス情報	貼付IPアドレス数
		貼付ページのサーバIPアドレス のIPバージョンコード
		IPアドレスデータ
D 1 4	マーク有効期限開始	開始年月日時分
D 1 5	マーク有効期限終了	終了年月日時分
D 1 6	コンテンツ特徴値	特徴値
D 1 7	認証サーバURL	URL
D 1 8	マウスHOVER対応アクション	アクション項目番号
D 1 9	マウスLEAVE対応アクション	アクション項目番号
D 2 0	マウス左ボタン押下アクション	アクション項目番号
D 2 1	マウス右ボタン押下アクション	アクション項目番号
D 2 2	アクション定義	アクション名
		アクション種別コード
		アクション種別固有データ
D 2 3	汎用IPアドレス情報	IPバージョンコード
D 2 4	汎用URL	URL
D 2 5	テキスト	テキスト

【図 1 1 A】

図 1 1 A

コード	アクション種別	アクション用データ
A 1	メニュー表示	なし
A 2	オフライン認証	認証後マーク表示定義項目
		認証後テキスト表示定義項目
A 3	吹き出し表示	表示用テキスト項目番号
A 4	テキスト表示	表示用テキスト項目番号
		テキスト内挿入情報数
		テキスト内挿入情報
		追加ボタン数
		追加ボタン用アクション定義項目リスト
A 5	Web ページ表示	URL 項目番号
		リンク先消滅時アクション項目番号
A 6	サーバ通信	サーバURL項目番号
		リクエスト種別コード
		レスポンス処理方式コード
A 7	マーク表示	画像効果コード
		合成テキスト
		テキストボディ色コード
		テキスト枠線色コード
		フォントコード

【図 1 1 B】

図 1 1 B

コード	アクション種別	アクション用データ
A 8	追加プログラム実行	スクリプトによるプログラム記述
A 9	リンクチェック	汎用URL項目番号
		OK時アクション項目番号
		NG時アクション項目番号

【図 1 2 A】

図 1 2 A

項番	Dコード	データ
1	D1	"JIS"
2	D2	"JP"
3	D3	"XXXマークセンター"
4	D4	"http://www.olmkcenter.or.jp"
5	D5	"YYYマーク総合センター"
6	D6	"http://www.olmkhq.or.jp"
7	D7	"9999-A00001-1-04"
8	D8	17 15
9	D9	3 18 19 20
1 0	D10	3 21 22 24
1 1	D11	3 26 23 25
1 2	D18	14
1 3	D20	16
1 4	D22	" " A3 32
1 5	D22	" " A2 10 0
1 6	D22	" " A1

【図 1 2 B】

図 1 2 B

項番	Dコード	データ
1 7	D22	"" A7 5 "認証中" 4 4 2
1 8	D22	"マーク貼付者の情報" A2 10 11
1 9	D22	"マーク制度の説明" A4 33 0 0
2 0	D22	"マーク貼付者の一覧" A5 30
2 1	D22	"" A7 0 ""
2 2	D22	"" A7 0 "不正使用マーク" 5 2 2
2 3	D22	"不正使用マーク" A4 34 2 35 1 1 29
2 4	D22	"" A7 0 "有効期限切れ" 5 2 2
2 5	D22	"有効期限切れ" A4 36 2 37 S1 1 29
2 6	D22	"" A4 38 5 39 40 41 42 35 2 27 28
2 7	D22	"認証サーバ問合せ" A6 31 1 3
2 8	D22	"主催者情報" A5 6
2 9	D22	"認証サーバへ通報" A6 31 2 4
3 0	D24	"http://www.ichiran.or.jp"
3 1	D17	"http://www.ninsho.or.jp"

【図 1 2 C】

図 1 2 C

項番	Dコード	データ
3 2	D25	"クリックで認証関係情報を表示します。"
3 3	D25	"YYYマーク制度とは、・・・ ・・・最新情報が確認できます。"
3 4	D25	"貼付されているURLが正しくありません。¥n 正：%E¥n 誤：%s¥n [認証サーバへ通報]のボタンを押すと、・・・ ・・・ボタンを押して下さい。"
3 5	D13	1 "http://www.ecstore.co.jp/" "index.html"
3 6	D25	"マークの有効期限が切れています。¥n 有効期限：%T¥n 現在時刻：%U¥n [認証サーバへ通報]のボタンを押すと、・・・ ・・・ボタンを押して下さい。"
3 7	D15	"200104"

【図 1 2 D】

図 1 2 D

項番	Dコード	データ
3 8	D25	<p>"このマークを使用する事業者は、YYYが定めるYYYマーク制度の認証基準に基づいて適格であると認め、YYYの認証マークの使用を許可しております。¥n</p> <p>¥n</p> <p>①マーク貼付者名 : ¥E¥n</p> <p>②代表者名 : ¥E¥n</p> <p>③郵便番号 : ¥E¥n</p> <p>④住所 : ¥E¥n</p> <p>⑤使用許可URL : ¥E¥n</p> <p>¥n</p> <p>[認証サーバ問合せ] ボタンでオンライン認証ができます。"</p>
3 9	D25	"ECストア株式会社"
4 0	D25	"代表取締役社長 山田太郎"
4 1	D25	"100-0035"
4 2	D25	"東京都千代田区丸の内3-2-2"

【図 1 2 E】

図 1 2 E

項番	Dコード	データ
1	D22	"マーク貼付者の一覧" A5 2 0
2	D24	"http://www.ichiran.or.jp"
3	D8	0 4
4	D22	"" A9 2 5 6
5	D22	"" A7 0 "OK"
6	D22	"" A7 0 "NG"

【図 1 2 F】

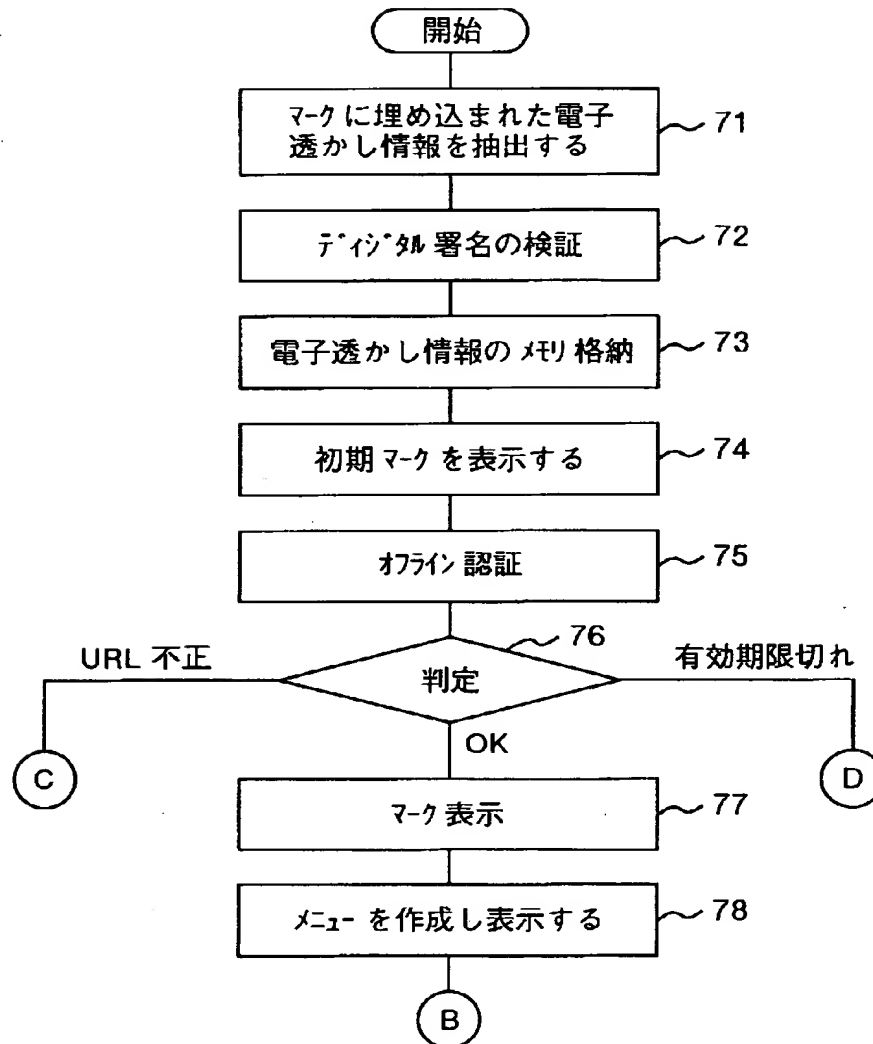
図 1 2 F

項番	Dコード	データ
1	D18	2
2	D22	"" A8 <Script= ... . . . スクリプトによる処理記述 . . . >"



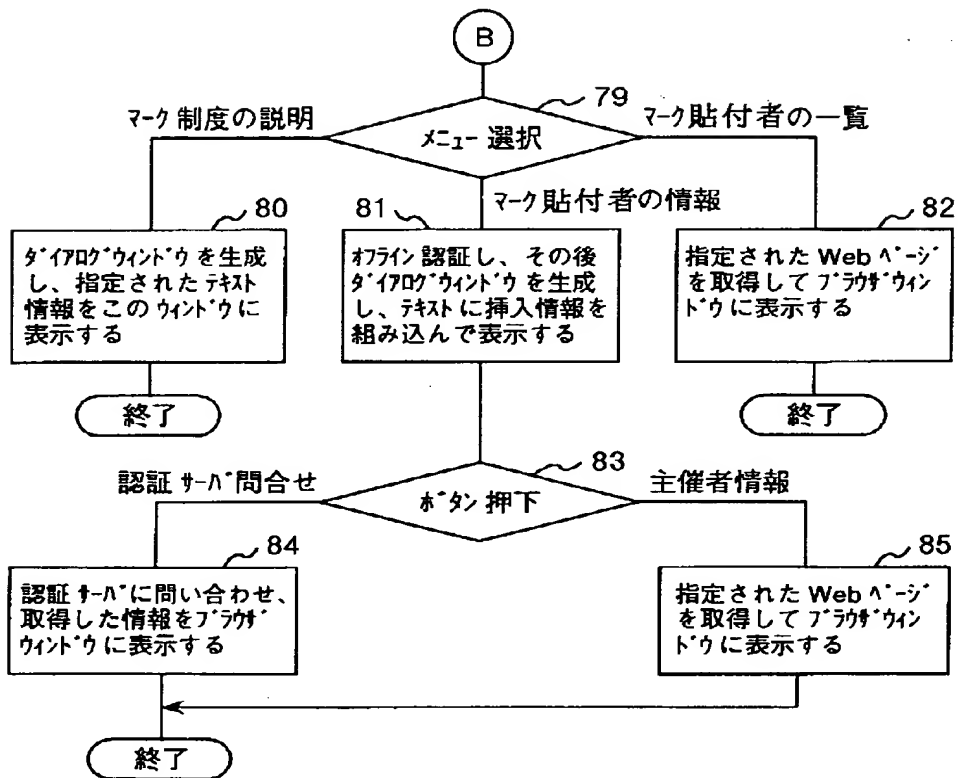
【図 13 A】

図 13 A



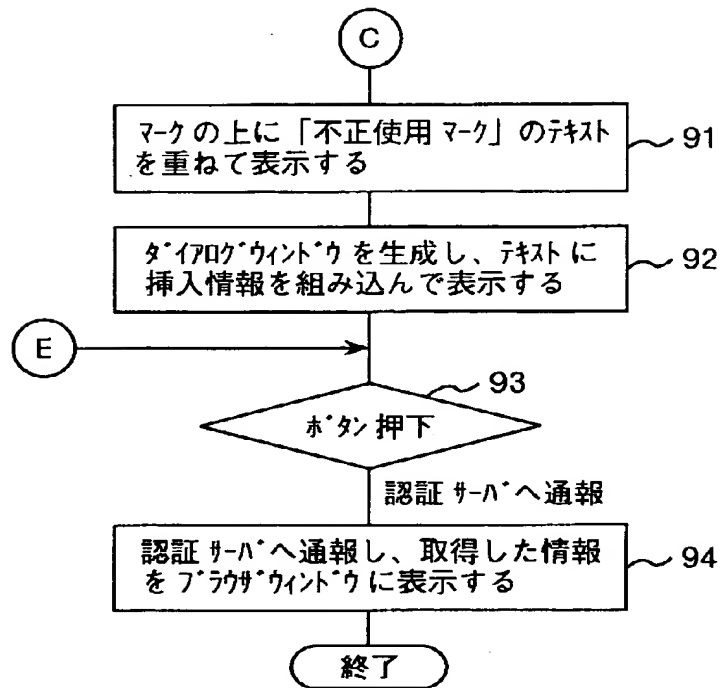
【図 13 B】

図 13 B



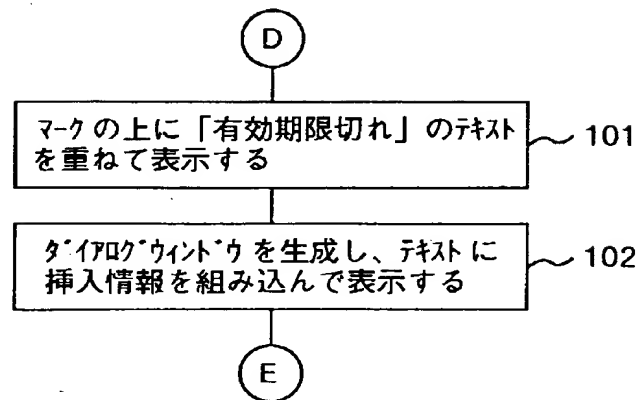
【図13C】

図 13 C



【図 1 3 D】

図 1 3 D



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 W e b ページに貼付されるマーク画像に関して、マーク画像に埋め込まれる電子透かし情報のデータ形式を改良してマーク種類ごとに異なる処理手順及び処理内容をもつよう対応する。

【解決手段】 マーク利用者クライアント 3 のブラウザ 2 1 は、マーク貼付者サーバ 2 から W e b ページ 1 1 を取得して表示する。マーク参照プログラム 2 2 は、マークの検出によって制御を受け、マーク画像から電子透かし情報を抽出する。この電子透かし情報は、参照されるデータと、アクション種別をもち参照するデータのインデックスをパラメータとしてもつアクション定義とを有する。マーク参照プログラム 2 2 は、このアクション定義を参照し、アクション定義に含まれるインデックスを介して必要なデータを参照してアクション種別によって定義される処理を行う。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005108]

1. 変更年月日	1990年 8月31日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地
氏 名	株式会社日立製作所